



鶴瀬西地域の鳥たち

①上沢の茶畑に住むキジ

朝もやがただよう早朝、空気を引き裂くように「キーン、キーン」とキジの甲高い鳴き声が、茶畑から上沢三丁目の地に響き渡ります。



昔は、雑木林と畑で、人家は数えるほどしかない土地だったそうですが、今は、雑木林は姿を消し、畑がわずかに残る住宅地に変わりました。

キジは、山里に住む鳥だそうです。上沢3丁目はまだ自然が残っているのかとうれしくなります。しかし、ここ数年声を聞こまません。自然が無くなつた為かとキジの身を心配しています。

(上沢3 鈴木 記)

②家族になりそこなつたツバメ・・・残念でした

13年になるわが家の車庫の天井に初めてツバメが巣作りを始めました。今年は何かいいことがあるぞと巣作りの進行を楽しみにしていましたが、車の屋根に糞が落ちるようになり、ツバメに気づかれないように、蛍光灯の下に受け皿をつるしました。ところがツバメは何を思ったかピタッと来なくなってしまいました。残念に思っていたところ交流センターには2カ所もツバメの巣ができるではありませんか。巣も完成し幾日かたったころには子の鳴き声が聞こえていました。そのうち子らは巣から顔をだし大分

成長し餌をねだるようなそんな風景がみられました。センターができてから10年、このツバメたちは、子から孫へとずっとずっと続いて来たのでしょう。これからもずっと姿をみてほしいと願っています。

(鶴馬 萩原 記)

**③関沢に舞い降りた白鷺**

あまり定かではありませんが、数年前のある朝、目覚めて新鮮な空気を吸いたくて2Fのベランダに出ました。ふと見ると白鷺がわが家のベランダに止まっていました。わが家の裏に江川が流れていますが、きっとそこから飛んできただろう。



家内にも見せてあげようと思いソッと教えてあげました。ところが、家内も驚きと珍しさで騒いだものだから1メートル以上もある大きな羽を広げて飛び立っていました。

縁起のいい大きな鳥がわが家に飛び込み、一時の楽しみと幸せをいただき感謝・・・。(関沢2 賀戸 記)

みんなで楽しむ バードウォッチング

私たちのまちで出会える野鳥たち

普段身近なところで、小鳥の鳴き声が聞こえませんか？今回は富士見市で見られる渡り鳥と野鳥の紹介をします。シベリア大陸から南西諸島に渡るため、中継点である日本列島に500種類もの渡り鳥が飛来します。富士見市周辺でも、江川や新河岸川、砂川掘、富士見高校周辺の水田地帯などで春、秋のころに多く見られます。四季折々の風景の中に、あなたも小鳥たちを、探してみてはいかがでしょうか。

富士見でちょっとひとやすみ

冬鳥たち

飛来時期12月～3月ころ

ⓐヒレンジャク

冬鳥として飛来するが、当市で見られるのは、3月ころの柳の新芽が出来るころ。びん沼川の柳の新芽を食べにくる。



ⓑベニマシコ

←セイタカアワダチ草の種を好む。数は少ない。



ⓑアメリカカヒドリ

眼から後方にかけて緑色の光沢が特徴。



ⓑハシビロガモ

←頭部が緑色と青紫色できれい。越冬のため飛来。



ⓑトモエガモ

→数は極めて少ない。顔の巴状の模様が特徴。



ⓒオオタカ

←保護活動により、増加している。4月～5月の繁殖期によく見られる。



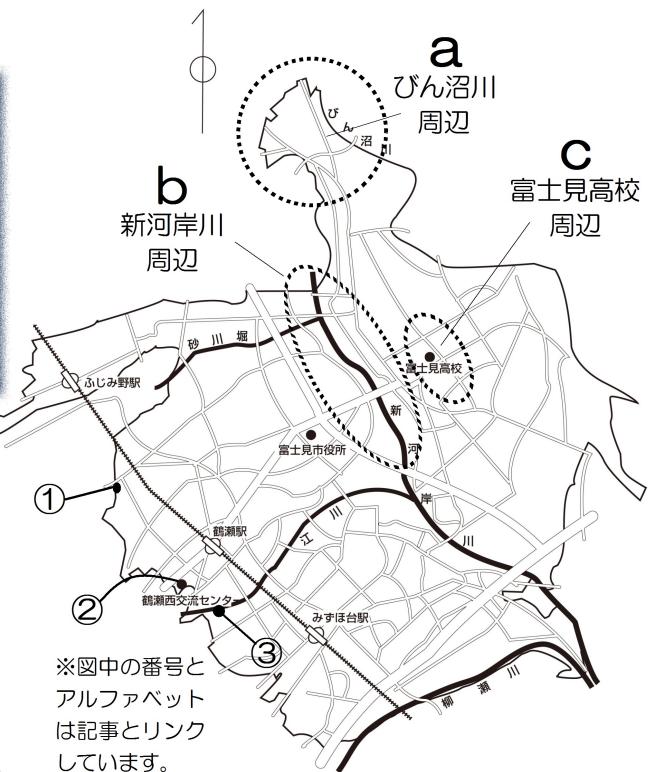
ⓒキアシシギ

←旅の途中、一時の休憩のため水田に飛来。9月ごろによく見られる。



a
びん沼川
周辺

C
富士見高校
周辺



ⓑヨシガモ →
ナポレオン帽のような頭。全体の模様がきれい。

ⓑオカヨシガモ
←美しいグレーの羽模様が特徴。比較的数が多い。

ⓑキンクロハジロ →
金色の目、黒い体、白い翼が特徴。数は少ない。

ⓒアマサギ
←夏鳥として5月～6月ごろに飛来。頭部から背にかけて橙黄色で水田でよく見られる。

今回の紙面作成に多くの情報や写真を提供いただいた「野鳥フォトクラブ」の小館新一さんに心より御礼申し上げます。小館さんは、関沢に住まわれ、二十数年前から探鳥を始められ、カメラを抱え全国各地を飛び回っています。最近では、カメラの性能も向上し、連写機能でベストショットも簡単に撮れる時代になりましたが、被写体である鳥を探すのに苦労されているとのお話を聞きしました。鶴瀬西交流センターのロビーで年2回写真展を行っています。